

「シジュウカラの抱卵」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

毎日卵を産み続けていた、北軽井沢巣箱のシジュウカラは、ついに全部産み終えて、抱卵に入ったようだ。今日はその様子を観察してみよう。



卵を産み終える前も、夜間はこのように、背中中の羽毛に頭をつこんで、「鶏のからあげ」のように眠っている。眠っているのはメスである。全部産み終えるまでは、昼間(5時~17時頃)は、ほとんど外に出ている。しかし、卵を巣草で隠しているのので、正確な卵の数はわからなかった。



お母さん鳥が「お出かけ」の時に数えてみて、びっくり! 何と 10 個! これは、私の山荘での野鳥の産卵の最高記録になった。(過去最高はシジュウカラの 8 個、2 位がヤマガラの 7 個、3 位がシジュウカラの 6 個、最低記録はフクロウの 3 個)



しかし、今日から昼間も抱卵をするようになった。(写真は 5 月 11 日の午前 9:10) この行動が見られると、「予定数の卵」を全部産み終わった証拠だ。さていくつ産んでいるのだろうか? 過去の例では、6~7 個が多く、最高でも 8 個だった。今回も 8 個を超えることはないだろうと思っていた。



日中も抱卵が始まると、メスはあまり餌をとりに外には出られなくなる。するとオスが、抱卵しているメスに餌を運んでくるようになる。それでも抱卵中はまだ楽だ。メスの分の餌だけ採ってくれば済む。食欲旺盛なヒナが 10 羽も生まれたら・・・サア大変だ! 父ちゃんも母ちゃんも、早朝から夕方まで、森じゅうから幼虫集めに飛び回ることになる。